

2025年度 講義要綱

科目	コミュニケーションⅡ 必修 講義		講師	遠藤 祐太郎
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本への理解を深める。(該当科目6コマ:前期5コマ、後期1コマ) 			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・書店における絵本の売り場作りの特性について理解する。絵本の流通について理解する。(認定:「絵本と出会う④」関本練) ・絵本を活用した表現活動について理解する。絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する。(認定:「絵本の世界を広げる技術②」なかむらしんいちろう) ・絵本が大人に与える影響について理解する。(認定:「大人の心を豊かにする絵本」細江幸世) ・絵本以外で人を楽しませる為の手法について理解する。(認定:「ホスピタリティについて学ぶ」近藤学) ・絵本を探す多様な手段(情報源)とキーワード(テーマや登場人物)について理解する。絵本検索に係わる各種段の活用法を体得する。(認定:「絵本の世界を広げる技術①」江花志乃) ・認定絵本士養成講座で修得した知識・技能・感性を生かした今後の計画活動について討議することにより、認定絵本士としての役割や行動すべき子とを理解する。(認定:「ディスカッション」なかむらしんいちろう・鈴木八重子) 			
到達目標1	認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。全6コマ(前期5回・後期1回)	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	保育者に必要とされるコミュニケーション力、協働の態度を身につけることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
授業方法	・コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	1 4/10 オリエンテーション 2 4/17 クラス活動(1) 3 4/24 【認定絵本士養成講座科目】(1)「絵本と出会う」担当:関本練 4 5/8 クラス活動(2) 5 5/15【認定絵本士養成講座科目】(3)「ホスピタリティに学ぶ」担当:近藤学 6 5/22 クラス活動(3) 7 5/29【認定絵本士養成講座科目】(2)「大人の心を豊かにする絵本」担当:細江幸世 課題提出→補講期間7/29(火)2限 8 6/5 オンライン クラス活動(4) 9 6/12 【認定絵本士養成講座科目】(4)「絵本の世界を広げる技術②」担当:なかむらしんいちろう 課題提出 10 6/19【認定絵本士養成講座科目】(5)「絵本の世界を広げる技術①」担当:江花志乃 11 6/26 オンライン クラス活動(5) 12 7/3 クラス活動(6) 13 7/10 クラス活動(7) 14 7/17 クラス活動(8) 15 7/24 クラス活動(9) 前期終了 16 9/12 オリエンテーション 後期開始 17 9/19 クラス活動(10) 18 9/26 クラス活動(11) 19 10/3 クラス活動(12) 20 10/10 オンライン クラス活動(13) 21 10/17 クラス活動(14) 22 10/24 クラス活動(15) 23 10/31 クラス活動(16) 24 11/7 クラス活動(17) 11/10(月)～11/21(金)教育実習期間・前半(幼稚園実習) 25 11/28 オンライン クラス活動(18) 26 12/5 【認定絵本士養成講座科目】(6)「ディスカッション」担当:なかむらしんいちろう・鈴木八重子 27 12/12 クラス活動(19) 28 12/19 クラス活動(20) 29 1/16 クラス活動(21) 30 1/23 クラス活動(22)			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	遠藤 祐太郎:クラス担任、実務経験のある教員 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○関本練:書店における絵本の売り場作り、及び、絵本の流通に出版に精通した者 ○なかむらしんいちろう:絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験をもつ者 ○細江幸世:絵本作家、絵本研究家、絵本をめぐる活動に精通した者 ○近藤学:子ども達を対象とした商業施設の従事者 ○江花志乃:絵本検索に係わるIT技術及び図書館レファレンスサービスの双方について専門的知識を有する者。 ○なかむらしんいちろう:講座責任者 ○鈴木八重子:前講座責任者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援論 必修 講義	講 師	土屋 多恵子	
授業概要	保育者は、子どもだけでなくその子どもの家庭(保護者)を包括的に支援する役割を担っている。そこでこの科目では子ども・家庭支援に関する制度の概要や、具体的な支援内容を理解する。特に近年問題となっている発達障害や虐待事例を取り上げ、子ども・家庭支援の担い手になるための準備を進める。			
授業目標	1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。			
到達目標1	子どもと家庭を支援する児童福祉施設について、主要施設の概要や現状について説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験(40点)	
到達目標2	子どもと家庭を支援する児童福祉施設への興味を養い、担い手となる自分をイメージし、自らに必要な準備を進めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、講義内容に関するレポート試験(40点)	
授業方法	ワークシート作成を伴う講義。			
授業計画	1 オリエンテーション「子ども家庭支援とは？」(授業概要・目標・評価・持物等の説明) 2 子どもと家庭を支える現場を知る 3 子どもと家庭を支える現場①:乳児院 4 子どもと家庭を支えるために必要なこと①:乳児院の現場から 5 子どもと家庭を支える現場②:児童養護施設 6 子どもと家庭を支えるために必要なこと②:児童養護施設の現場から 7 子どもと家庭を支える現場③:母子生活支援施設 8 子どもと家庭を支えるために必要なこと③:母子生活支援施設の現場から 9 障害のある子どもと家庭のための生涯支援について 10 子どもと家庭を支える現場④:障害児入所施設 11 子どもと家庭を支える現場⑤:障害児通所施設 12 生涯にわたる支援の現場:障害者入所施設/通所施設 13 子どもと家庭を支えるために必要なこと④:障害者支援施設の現場から 14 まとめ 15 学期末試験			
必須テキスト	『ひと目でわかる保育者ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック2024』中央法規			
参考文献	授業内で適宜紹介する。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。主任児童委員として地域における支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を修得する授業を行う。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育者論 必修 講義	講 師	平澤 順子	
授業概要	幼稚園教諭、保育士、保育教諭などに関わる法令、その制度的位置づけおよび意義についての基本的知識を身に付ける。また、保育者の専門性や資質能力について考えを深める。さらに、保育の現場で求められる保育者同士の協働、家庭や地域社会および専門機関との連携の意義を知り、専門職としてのキャリア形成を図っていくことの大切さを理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、保育者の役割と倫理について理解する。 2、保育士の制度的な位置づけを理解する。 3、保育士の専門性について考察し、理解する。 4、保育者の連携・協働について理解する。 5、保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。 			
到達目標1	・幼稚園教諭、保育士、保育教諭の制度的位置づけを知り、その役割と意義について説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	・授業への取り組み(10点)レポートの下書きおよび清書の提出(20点)、講義内容に関する筆記試験(20点)⇒合計50点	
到達目標2	・保育者としての学びの継続、資質向上とキャリア形成についての重要性を理解できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	・討論への貢献度(15点)、発表(15点)、レポート(20点)⇒合計50点	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用 ・テキストを通して内容を理解し、レポート作成に向け、要点を整理していく ・適宜授業内でグループディスカッションを行い、他者の意見の違いに気づいたり共有することを通して理解を深めていく 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ・オリエンテーション(自己紹介、授業の流れを説明) ・専門職としての保育者の特徴とプロの保育者としてやっていくために必要な経験と資質について学ぶ 2 ・幼稚園教諭、保育士、保育教諭および施設で働く保育者の具体的な仕事内容と保育者の役割について学ぶ 3 ・幼稚園教諭、保育士、保育教諭のそれぞれの法的根拠を知り、そこに示されている保育者の役割や職務内容、義務などについて学ぶ ・倫理綱領について触れ、保育者の専門家としての必要な倫理観とその判断について学ぶ 4 ・教育を受ける者から実践する者になるために、教育に対する見方や態度を転換する必要性について学ぶ ・保育者としての素質を育てる生活体験、直接体験、教養教育を重視することの重要性について学ぶ ・幼稚園教諭免許状、保育士資格取得課程の構造と保育の現場での学ぶ意味について理解する 5 ・保育者と他の仕事の違いについて学ぶ ・保育者に期待されていることについて学ぶ ・保育者になるために必要な学生時代の学びについて理解する 6 ・教職者の仕事・義務・研修の種類と内容について学ぶ 7 ・教員の身分と任用について学ぶ ・教員の服務について学ぶ ・身分の保障と義務違反における対応について学ぶ 8 ・保育者および園長経験者からの経験談・事例を基に、現場で保育者が共に学び合い、成長することの意味や職員間の連携の重要性について考え、理解を深める 9 ・地域における教育・保育機関としての役割を認識し、地域や様々な専門機関との連携・協働、保育の質を高めるための意識・態度について理解する 10 ・授業内で取り組んだ課題を基に、レポート作成に取り組む 11 ・明治期以降の我が国の保育の歴史の変遷をたどり、今ある我が国の保育が形成されてきた経緯を理解し、学生自身の保育者像を明確にする 12 ・子どもの主体的な遊びと学びとそれに対する保育者の援助について理解する 13 ・保育者の倫理観、人間性、職務と責任の理解と自覚、知識および技術の習得と維持および向上に務める必要性について学ぶ ・経験年数や職位、専門性等を踏まえ、それぞれの職員が必要な知識や技術を身に付けていくとともに、園全体で共有し、組織的に保育の質の向上に取り組む大切さについて学ぶ 14 ・ジェンダーフリーな職場環境について理解する ・「今の子どもの育ち」の課題を整理し、「気がかりな子」への対応や障害児保育の新たな動きも含めて、家庭や地域社会でどのような子育て支援が必要かについて考える ・現代の保育現場で起こっている問題を取り上げ、課題を整理していく 15 ・授業内小テストを行う ・幼稚園や保育所、認定こども園など、実際の保育の場で働く保育者の声を通して、「人との関わり方」「学生生活の意義」「自分磨き」など、保育に関する専門的学習の基本を幅広く学ぶ 			
必須テキスト	『教職論』2019、原田敬文、丹後政俊、吉益敏文、豊岡短期大学通信教育部			
参考文献	『今に生きる 保育者論 第4版』2019、秋田喜代美・西岡薫・菱田隆昭編、みらい 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説他			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業に該当。研究領域は乳児・3歳未満児の相互作用及び保育者の援助についての実相を質的分析を通して明らかにすることを目指しています。担当教科は領域「環境」、カリキュラム論、教育・保育実習指導、保育総合演習、保育教職実践演習			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・健康		必修 講義	講 師	菊池 一英
授業概要	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う。領域「健康」の指導に必要となる、基礎知識、技能を身に付ける。				
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。				
到達目標1	1. 各年齢の子どもの発達の特徴を十分に踏まえた保育内容について、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組みへの貢献度(10点)レポート下書き提出(20点)リアクションペーパー(20点)		
到達目標2	2. 保育場面を想定して、環境構成、保育士の配慮事項を含む、保育過程を組み立てることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワーク討論への参加度(10点)レポート下書き提出(20点)リアクションペーパー(20点)		
授業方法	短大のレポート・試験課題に関する基礎知識を講義し、レポートを仕上げ、試験をクリアすることを優先し授業を展開します。				
授業計画	1 オリエンテーションと心身の発達の特徴と健康課題について、及び健康育成における保育者の役割(レポート①課題) 2 心の発達における「情緒・感情」の発達及び動きの洗練化と多様化 3 安全教育と安全管理及びリスクマネジメント 4 食物アレルギー児及び心の発達5項目 5 基本的な生活習慣5つ及び食事・睡眠について※オンライン 6 機能的発達の特徴について 7 現代社会の健康観について(レポート②課題) 8 発達について説明しなさい。類型、臨界期、段階に言及する。及び運動不足による疾病、糖尿病について 9 健康論テスト 10 ビアジェの知的発達と功績について 11 トレーニングの6つの原則について 12 スキヤモンの発育曲線について 13 有酸素運動について及びその効果 14 健康科学テスト 15 レポートかDVD(健康の条件とは)学習				
必須テキスト	豊岡短期大学指定のテキスト				
参考文献	特に指定なし				
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤務。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2025年度 講義要綱

科 目	必修 保育内容演習・人間関係 講義		講 師	湯浅 阿貴子
授業概要	領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりを通じた人間関係の発達についてエピソードを取り上げ、考察する。また、保育者としてどのように子どもと人の関わりを育てていくのか、保育者としてどのような関係性を築いていくのか、子ども一保育者、子ども一子ども、子ども一保育者、保育者一保育者、さらには保育者一保育者という様々な関係性について考察していく。			
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものとの関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。			
到達目標1	保育の内容が相互に関連性をもつことを理解した上で、領域「人間関係」のねらいや内容を理解し、具体的な例を挙げて説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	スクーリングにおける受講態度(25点)、課題(レポート)提出(25点)	
到達目標2	子どもの人間関係の発達を理解し、保育実践の具体的な場面を想定しながら必要となる保育者のかかわりについて考え、自らの考えを述べることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討議やグループ活動への参加態度(25点)、発表・レポート提出(25点)	
授業方法	資料やパワーポイントを活用した講義、プリントへの記入。グループワークを行う。			
授業計画	1 領域「人間関係」・ねらいと内容・視点から領域へ 2 領域「人間関係」・領域の相補性(保育活動の総合性)と幼児期の終わりまでに育てたい10の姿 3 子どもを取り巻く社会的環境と人間関係の発達 4 子どもの人間関係の育ちと保育者の役割①・自己概念の発達・発達の筋道と人とのかかわり 5 子どもの人間関係の育ちと保育者の役割②・人間関係の発達と遊び～乳児期～・愛着形成と保育者との信頼関係 6 子どもの人間関係の育ちと保育者の役割③・人間関係の発達と遊び～1歳児～・自我の芽生えと探索活動 7 子どもの人間関係の育ちと保育者の役割④・人間関係の発達と遊び～2歳児～・自我の形成と周囲とのかかわり・イメージの広がりとおっこ遊び 8 子どもの人間関係の育ちと保育者の役割⑤・人間関係の発達と遊び～3歳児～・自立と依存・自己主張と自己抑制 9 子どもの人間関係の育ちと保育者の役割⑥・人間関係の発達と遊び～4・5歳児～・協同性の育ち～目標を共有しながら遊ぶ～・ルール共有といざこざ 10 園生活の中にみる人とのかかわり・個と集団の育ち～私と私たち～・規範意識と道徳性 11 遊びの中にみる人間関係・遊びの発達と保育者のかかわり 12 人的環境としての保育者と保護者・共に育てる関係としての保護者と保育者のかかわり・人的環境としての保育者と保育者間の連携 13 今日的な人間関係の課題・地域とのかかわりと子どもの発達 14 保育実践を考察する①・協同的な遊びからの学びを考える 15 保育実践を考察する②・保育計画の立案～協同的な遊びの指導案を作成する～			
必須テキスト	「人間関係論」(配本テキスト)「幼稚園教育要領解説」(最新版)「保育所保育指針解説」(最新版)「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーバル館)			
参考文献	適宜配布する			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。幼稚園教諭としてクラス担任等を務めた後、幼児の協同的な遊び、道徳性・規範意識に関する研究を大学院博士後期課程にて行う。現在幼稚園園長として勤務。研究領域は保育内容領域「人間関係」			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・環境	必修 講義	講 師	石原 成
授業概要	子どもは、あそびや生活を通して自ら環境に働きかけながら学びを深めていく。それを踏まえ、「環境を通して行う保育」、「あそびを通しての総合的な指導」の在り方について考察し、保育における環境の重要性について学んでいく。			
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えたとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。			
到達目標1	・領域「環境」のねらいと内容について理解し、保育者の役割について考察することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	期末試験(50点)	
到達目標2	・環境構成を支える知識や技術を身につけることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題提出(50点) 短大レポート提出は単位取得必須事項とする。	
授業方法	①短大レポート課題に基づいて基礎的知識を講義する。 ②実践的な内容を演習形式で体験的に学習する。			
授業計画	1 オリエンテーション(講義の概要とねらい) 2 領域「環境」の基礎知識 3 子どもを取り巻く人的環境 4 子どもを取り巻く物的環境 5 子どもを取り巻く自然環境 6 子どもを取り巻く社会的環境 7 保育における環境構成の実際 8 発達段階を踏まえた指導計画の作成 9 園外保育からの学び～校外学習 10 短大レポート作成 11 思考力と科学性の芽生え 12 子どもを守り育てる環境 13 気になる子どもと環境 14 短大試験対策 15 まとめ、期末試験			
必須テキスト	短大指定テキスト			
参考文献	その都度紹介する。補助教材としてプリントを使用する。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当する。研究領域は、保育史、保育思想、保育カリキュラム。著書に「0・1・2歳児の連絡帳選べる書き方&文例集」(チャイルド本社)の他、保育雑誌の連載、Web記事の執筆なども行う。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・言葉		必修 講義	講 師	加莉 則子
授業概要	子どもは、周囲の大人や友だちとのかかわりを通して、様々な方法で自分の内面を表現しようとする。それを踏まえ、保育者として求められる保育技術、保育方法などについて「言葉」の視点から考察し、実践を通して学んでいく。				
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。				
到達目標1	・領域「言葉」のねらいと内容について理解し、保育者の役割について理解し、説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	期末試験(50点)		
到達目標2	・乳幼児期のことばの発達を理解し、製作・実践を通して、言語表現技術を身につけることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題提出(50点) 短大レポート提出は単位取得必須事項とする。		
授業方法	①短大レポート課題に基づいて基礎的知識を講義する。 ②実践的な内容を演習形式で体験的に学習する。				
授業計画	1 オリエンテーション(講義の概要とねらい) 2 言葉の発達と保育者の役割①(言葉の役割と特徴・乳児期の言葉の発達と保育者の役割) 3 言葉の発達と保育者の役割②(幼児期の言葉の発達と保育者の役割・保幼小連携) 4 ことばを育てる児童文化財①(児童文化財の種類と特徴-絵本、おはなし、紙芝居) 5 短大レポート作成 6 ことばを育てる児童文化財②(児童文化財の種類と特徴-おもちゃ、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等) 7 ことばを育てる児童文化財③(絵本の分類と読み聞かせの方法) 8 ことばを育てる児童文化財④(おはなしの活用と留意点) 9 ことばを育てる児童文化財⑤(言葉遊びとわらべうた) 10 短大試験対策 11 保育における言葉かけ(保育場面での事例を通して考える) 12 保護者対応における言葉かけ 13 保育現場で出会うギモンと解決の糸口 14 保育者の感性と表現力 15 まとめ・期末試験				
必須テキスト	短大指定テキスト				
参考文献	授業内でその都度紹介する				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当する。保育所にて保育士、主任、園長として長年勤務する。共著に「0～6歳児 「言葉をそだてる」保育よくあるギモン40&言葉あそび20」(東洋館出版)の他、日本国語教育学会月刊誌への執筆なども行う。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・表現		必修 講義	講 師	森 麻美
授業概要	①表現することの楽しさ面白さを自ら体験し、自己表現力を高める ②子どもが表現したくなる環境をどのように整えていけばよいのかを考察し、演習を通し実践的に学ぶ				
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えたとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。				
到達目標1	①保育現場で活かせる幅広い表現活動を体験し、自分なりに楽しみながら表現することができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(50点)		
到達目標2	②さまざまな表現に関する基礎知識を習得し、他者と主体的に関わり協働することができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	協働する※共通の目的のため複数の主体が協力し対等な立場でそれぞれの特性や自主性を尊重しながら役割分担を行うなど(30点) 発表会(20点)		
授業方法	実技・グループワークを中心に授業を展開する				
授業計画	1 オリエンテーション・リズムあそび・手話ソング 2 手あそびパート1・子どものうた・手話ソング 3 手あそびパート2・季節のうた遊び 4 リズムに合わせて身体表現あそび 5 表現クイズ大会 6 パネルシアター遊び・いろいろな表現活動を体験する※絵本/紙芝居/手袋/エプロン/ペープサート等 7 創作ダンスあそび 8 手遊び・季節のうた～情景の伝え方～(オンライン) 9 音楽に合わせて劇あそび1 10 音楽に合わせて劇遊び2 11 子どもの表現について/オリジナル劇あそびについて(オンライン) 12 オリジナル劇あそびパート1 13 オリジナル劇あそびパート2 14 オリジナル劇あそびパート3 15 発表会・振り返り・まとめ				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	11年間幼稚園専属の運動あそび講師として勤務。その後、キッズと親子のたいそう教室「AMINASTIC」を開業し代表を務める。現在10園(0～5歳児)で運動遊び講師を担当。また、全国で保育士研修会やイベントなどを通し、身体を動かす楽しさを伝え続けている。チャイルドカウンセラー。アスク・ミュージック所属。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	40 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・身体表現遊び I 必修 講義		講 師	真砂 雄一
授業概要	子ども達に運動遊びの楽しさを教えるためにも、まずは学生自身が運動遊びを体験する。 そして、子どもたちの表現と運動に関する教材を活用することで知識を身に付ける。 様々な環境構成について考え、展開するための技術を学ぶ。 本科目は、レポートの下書きおよびレポートの清書提出が評価基準として割合が高いため、注意すること。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	子どもの運動、表現遊びについての基礎知識を説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関するレポート(30点)	
到達目標2	子どもの発育発達に沿った運動遊びについて理解し、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	運動遊び実践の計画立案、積極性、協調性(20点)、実践発表・発表に関するレポート(30点)	
授業方法	授業は、オンラインで行う講義・対面での講義・実技のアクティブラーニング・スタイルで行う。 短大のレポート課題に関する基礎知識を講義し、レポート作成を優先し授業を展開する。 なお、対面授業時には、実際に子ども達の運動遊びを体験してもらう回があるが、その際は動きやすい服装で参加すること。 ※運動遊びをする回については、事前に予告をする。 ※進行状況に合わせ内容や順番を適宜変更する。			
授業計画	1 ガイダンス・身体表現遊びとは/レポート作成について 2 リズム遊び・身体表現(実技) 3 レポート作成:表現と子どもの運動 4 レポート作成:表現とこどもの運動における援助者の役割 5 レポート作成:環境構成の重要性(オンライン) 6 ボール遊び(実技) 7 レポートまとめ 8 試験対策①安全管理 環境構成 9 身体表現(実技) 10 試験対策②調整力について 11 試験対策③園外保育と野外活動、まとめ(オンライン) 12 運動遊び実践の計画立案・グループ決め 13 運動遊び実践① 14 運動遊び実践② 15 運動遊び実践③、レポート試験			
必須テキスト	併修テキスト『表現とこどもの運動』			
参考文献	授業内で適宜紹介する			
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 長年保育現場で幼児体育指導員、保育士への運動指導アドバイザーをしており、今現在も保育園で子どもたちに運動遊びを教えている。 小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験もあり。 現在は、保育系短大の学科長であり、幼児体育や健康を担当する教授として勤務。 専門分野:幼児体育、身体表現、健康科学			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	40% %

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・言葉遊び I 必修 講義		講 師	なかむらしんいちろう、 乙川 智子
授業概要	[乙川]手話を学ぶことにより表情やコミュニケーション能力を高め、聴覚障害者・児に対する接し方を学ぶ。(該当科目3コマ) 【認定絵本士養成講座科目】を学び、絵本への理解を深める。(該当科目11コマ) 【課題作成】(該当科目1コマ)			
授業目標	<p>1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。</p> <p>2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。</p> <p>【認定絵本士養成講座科目】 「認定絵本士養成講座科目」を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる」 ・「絵本」をめぐる行為について理解する、「絵本」の定義の捉え方について理解する、「絵本」の多面性を理解するとともに、その可能性や課題を理解する(認定:「絵本総論」課題 中村真一郎) ・世界の絵本の歴史について理解する、日本の絵本の歴史について理解する、絵本賞について理解する(認定:「絵本各論①」課題 中村真一郎・田部井佳代) ・絵本の視覚表現特性について理解する、絵本の言語表現特性について理解する(認定:「絵本各論②」課題 中村真一郎・いのうちひろ・山田花菜) 以下、文字数に制限があり未記入。</p>			
到達目標1	言葉(手話や絵本)に関する知識や技術を習得し実践できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み方や授業中の意欲的な学ぶ姿勢、課題提出など=合計(50点)	
到達目標2	【認定絵本士養成講座科目】認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への熱心な取り組み。課題のある場合は期日までに提出。50点【「絵本総論」「絵本各論①」「絵本各論②」「絵本各論④」「絵本が生まれる現場①】は課題の提出必須。出席+課題提出で、【認定絵本士養成講座科目】に出席となります。	
授業方法	講義・実技			
授業計画	<p>1 4/8(火)3限【認定絵本士養成講座】絵本各論②(視覚表現、言語表現から見た絵本)課題あり 担当:中村</p> <p>2 4/15【認定絵本士養成講座】絵本総論(絵本とは何か)課題あり 担当:中村</p> <p>3 4/22 休講 →7/1(火)1限[乙川]聴覚障害について(理論)、自己紹介(名前、趣味等)の表現練習</p> <p>4 4/29【認定絵本士養成講座】絵本が生まれる現場② 担当:横山雅代</p> <p>5 5/13(火)休講 →7/8(火)1限[乙川]聴覚障害について(理論)、自己紹介(名前、趣味等)の表現練習</p> <p>6 5/20【認定絵本士養成講座】さまざまなジャンルの絵本①(物語の絵本) 担当:中村</p> <p>7 5/27【認定絵本士養成講座】絵本のもつ力(様々な角度から絵本を見る) 担当:中村</p> <p>8 6/3 休講 →7/15(火)1限[乙川]保育園またはアルバイト先で使用する会話練習、まとめ オンライン</p> <p>9 6/10【認定絵本士養成講座】絵本各論④(メディアとしての絵本の位置づけ)課題あり 担当:手塚けんじ</p> <p>10 6/17【認定絵本士養成講座】絵本が生まれる現場①(作家の感性に触れる) 課題あり 担当:中村</p> <p>11 6/24 課題作成 担当:中村 オンライン</p> <p>12 7/1【認定絵本士養成講座】さまざまなジャンルの絵本③(科学絵本) 担当:手塚けんじ</p> <p>13 7/8【認定絵本士養成講座】絵本各論①(絵本の歴史、絵本賞について)課題あり 担当:中村</p> <p>14 7/15【認定絵本士養成講座】心に寄り添う絵本 担当:細江幸世</p> <p>15 7/22【認定絵本士養成講座】さまざまなジャンルの絵本②(昔話童話の絵本) 担当:横山</p>			
必須テキスト	乙川:特に指定なし【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献	乙川:適宜プリントを使用する。【認定絵本士科目】適宜紹介する。			
担当教員の専門分野等	【乙川】「実務経験のある教員による授業」30年以上にわたり手話指導並びに手話通訳活動中【認定絵本士養成講座担当講師】○中村:絵本をめぐる活動に精通した者/絵本の歴史や絵本賞に関する専門的知識を有する者/絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する者/絵本作家、童話と作家して豊富な経験を持つ者/物語を内容とした絵本に関する専門的知識を有する者/昔話・童話を題材にした絵本に関する専門的知識を有する者 ○いのうちひろ・山田花菜:絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する者/絵本作家、童話作家として豊富な経験を持つ者/物語を内容とした絵本に関する専門的知識を有する者/絵本作家、絵本の研究者、絵本をめぐる活動全般に精通した者 ○手塚けんじ:情報メディアとしての絵本の特性および我が国著作権制度と絵本の関わり、電子書籍と脳科学に関する専門的知識を有する者など ○千葉:科学絵本などに関する専門的知識を有する者など ○田部井佳代:絵本の歴史や絵本賞に関する専門的知識を有する者/昔話・童話を題材にした絵本に関する専門的知識を有する者 ○横山雅代:絵本・紙しばい、児童文学の編集業、以下文字数に制限があり未記入。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	0 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	0 %
	社会人としての基本	0 %	主体性 素直 思いやり	0 %
	他者と関わる力	0 %	専門的知識・技術	100 %

2025年度 講義要綱

科 目	必修 講義		講 師	向井 優芽
授業概要	3歳未満児の保育について学びます。特に発達に即した援助(関わり、環境構成)とは何かを学びます。そして実際に見聞きした事例を用いて、明日以降の保育をどのように計画するか、実際に考え、学びを深めます。			
授業目標	1. 3歳未満児の発達・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭にいた保育を示す。			
到達目標1	乳児保育に該当するこども(0歳～3歳)の発達を知り、その配慮事項を説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業内で作成する発達表の提出をもって評価する(50点)	
到達目標2	乳児保育における3つの視点や、1歳以上3歳未満児の保育における5領域を説明できるようになる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	14回目、15回目に行うGW、発表、提出物から判断する(50点) 子どもの育ちを、3つの視点や5領域から捉えることができるか。 そこからどのような育ちをねらうか。そのための環境の配慮は十分に検討されているか。	
授業方法	講義、グループワーク、発表、演習			
授業計画	1 オリエンテーション 2 0歳児(乳児)の発達と配慮事項について 3 0歳児(乳児)の発達と配慮事項について 4 1歳児～3歳未満児の発達と配慮事項について 5 1歳児～3歳未満児の発達と配慮事項について 6 産学連携 7 エピソードを書く、話す、聞く 8 1～3歳未満児の発達と配慮事項について 9 1～3歳未満児の発達と配慮事項について 10 乳児(0～3歳未満児)保育における週案の考え方、環境づくり 11 乳児(0～3歳未満児)保育における週案の考え方、環境づくり 12 産学連携 13 GW エピソードから乳児保育における計画(週案)を立てる 14 GW エピソードから乳児保育における計画(週案)を立てる 15 発表会			
必須テキスト	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 『乳児保育演習ブック第2版』ミネルヴァ書房			
参考文献	授業内で紹介する			
担当教員の 専門分野等	保育者の「専門性」「実践知」をキーワードに研究しています。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	0 %
	社会人としての基本	0 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %

2025年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅱ 必修 講義		講 師	北川 裕子
授業概要	施設や保育士の役割や援助等、基礎的な内容について具体的に学ぶ。 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。 			
到達目標1	施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(15点)、提出物(35点)	
到達目標2	虐待の防止、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深めることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(15点)、提出物(35点)	
授業方法	事例研究やロールプレイ、児童自立支援計画の立案等を通し、保育現場での実践力を身につけられるような学習を取り入れる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 養護の基本原理等の復習、子どもの権利擁護 2 保育士の資質と倫理・責務、チームワーク 3 施設養護の生活特性および実際 ①入所、日常生活援助 4 施設養護の生活特性および実際 ②集団生活、家族調整 5 施設養護の生活特性および実際 ③自立支援 6 施設養護の生活特性および実際 ④退所、アフターケア 7 施設養護の生活特性および実際 ⑤記録の意味、個別支援計画の作成、自己評価 8 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ①心理的支援 9 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ②被虐待児への支援、親への支援 10 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ③障がい児への支援、親への支援 11 里親等の家庭養護の特性及び実際 12 日常生活に関する事例分析 13 治療的支援に関する事例分析 14 今後の施設の方向性(小規模化等) 15 今後の社会的養護の方向性(家庭的養護の推進、地域との関わり、展望等) 			
必須テキスト	なし			
参考文献	「児童の福祉を支える 演習 社会的養護Ⅱ」 吉田真理著 萌文書林 「図解で学ぶ保育「社会的養護Ⅱ」 原田旬哉他 萌文書林			
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童養護施設勤務経験あり。 児童家庭福祉・社会的養護分野を研究。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	15 %
	社会人としての基本	15 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I a	必修 講義	講 師	加苺 則子
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な学習経験である保育所実習を有意義なものにするために必要な事項を学ぶ。 ・実習日誌の記載方法を体得する。 ・「認定絵本土養成講座科目」を学び、絵本への理解を深める。(該当科目3コマ) 			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児を対象とした絵本の特色を理解する・乳幼児が絵本に触れるための具体的取組について理解する。(認定:「絵本と出会う①」今泉良一) ・保育、教育の現場における絵本の意義について理解する。保育、教育の現場における絵本を用いた活動の取り組みについて理解する。(認定:「絵本と出会う②」今泉良一) ・各年齢期の子どもの発達と絵本の関わり方の特性について理解する。絵本が子どもの発達に及ぼす影響に関する学術的知見を理解する。(認定:「絵本各論③」今泉良一) 			
到達目標1	・実習に臨む目的意識、実習生としての常識を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実技試験(50%)	
到達目標2	・実習日誌の記入方法、指導案の作成方法を習得できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	筆記試験および指導案提出(50%)	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して実習を想定し、実習生として必要な常識、スキル、柔軟性を学び、身につける。 ・無断欠席、遅刻は不可であり、減点対象となる。 ・報告・連絡・相談の習慣を身に付けられるよう意識を高める。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 【認定絵本土養成講座科目】「絵本と出会う①」 2 【認定絵本土養成講座科目】「絵本と出会う②」 3 発達の様子と実習生の関わり方 4 日誌に生かす保育の観察方法 5 保育現場職員による講義 6 実習日誌を書く意義と記入方法 7 実習に伴う書類の作成 事務手続きの確認 8 手あそび、読み聞かせの指導案作成 9 オリエンテーションに向けて 10 保育教材作成 11 【実技試験】手あそび、読み聞かせ、スケッチブックシアターの発表 12 実習前後のまとめ 13 【筆記試験】実習日誌 14 実習に向けて確認 15 【認定絵本土養成講座科目】「絵本各論③」 			
必須テキスト	『千春と大吾の保育実習ストーリー』萌文書林 【認定絵本土科目】認定絵本土養成講座テキスト			
参考文献	その都度紹介する。補助教材としてプリントを使用する。			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業に該当する。保育所にて保育士、主任、園長として長年勤務する。共著「0～6歳児 「言葉をそだてる」保育よくあるギモン40&言葉あそび20」(東洋館出版)の他、日本国語教育学会月刊誌への執筆なども行う。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I b		必修 講義	講 師	土屋 多恵子
授業概要	様々な施設の現場に立ち、対象者との関わりを通して学ぶ「施設実習」を行う際に必要となる知識や視点を養い、「施設実習」で得る貴重な経験を、より有意義な学びとできるよう、具体的な準備を進める。				
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。				
到達目標1	講義内容を理解し、要点をまとめ、自らの考えを文章として記すことができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関するノート提出(60点)		
到達目標2	実習に臨むにあたり、目的意識や自らの課題を具体的に記すことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、実習目標の作成(20点)		
授業方法	ノート作成を伴う講義受講				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明) 2 子どもの育ちの理解①:愛着障害(1) 3 子どもの育ちの理解②:愛着障害(2) 4 関わりの技術①:実際の実習より(ロールプレイ) 5 関わりの技術②:「視点」を養う 6 子どもの育ちの理解③:発達障害 7 関わりの技術③:療育場面より 8 関わりの技術④:療養介護場面より 9 施設実習先の発表 10 施設実習への具体的準備①:個人票作成、オリエンテーション準備 11 施設実習への具体的準備②:実習目標の作成(1) 12 施設実習への具体的準備③:実習目標の作成(2) 13 実習日誌の理解と練習(1) 14 実習日誌の理解と練習(2) 15 施設実習への具体的準備:実習前/実習中/実習後にすること				
必須テキスト	『ひと目でわかる保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック2024』中央法規				
参考文献	授業内で適宜紹介する。				
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。主任児童委員として地域における支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を修得する授業を行う。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	25 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	25 %	専門的知識・技術	10 %	

2025年度 講義要綱

科 目	合唱と合奏 I 選択必修 講義	講 師	石原 奈保子、楠野 麻衣、島内 亜津子、国友 真知子、山崎 洋子	
授業概要	1年次に学んだ子どもの歌を中心としたレパートリーについてどのように現場で子どもたちと楽しんでいくか、自ら工夫しながら、コードによる簡易伴奏も含めより良い支援の方法を身に付けていきます。前半7回をクラス全体授業とし、歌遊びや合唱の授業45分、その後A52教室に全員で移動し、ピアノのレパートリーのための自主練習に充てます。担当講師1名のため、活発に質問を行いながら進めてください。6月からの後半8回は、小グループに分かれ、ピアノ個人レッスン(オンライン授業も含む)を行います。前半7回で自ら練習してきた内容をさらに深め、レパートリーを増やして保育実習に向けて実践力を養っていきましょう。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容とねらいを理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を自身のスキルに合わせて自ら工夫して実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	全体授業では、環境、生活、人間関係等、様々なねらいに応じた歌遊びの現場での楽しみ方を身に付け、またハーモニー(合唱)を演習し、互いに聞き合い、協働の喜びを共有することが出来る。また授業後半の全員参加のA52教室・その他レッスン室での個人練習に意欲的に取り組むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	クラス全体での歌遊びや合唱への積極的参加(30点)・自主練習への能動的な取り組み(20点)	
到達目標2	個人レッスン(ピアノ等)では保育実習に向けて生活の歌や現場ですぐ楽しめる曲を2～3曲仕上げる事が出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業日以外での積極的な自主練習と授業への積極的な取り組み(30点)・実技試験(20点)	
授業方法	・15回の授業の内、前半7回を歌遊び・合唱の全体授業、後半8回を小グループでのピアノを中心とした個人レッスン(オンライン授業も含む)に設定し受講していく。 ・基本的に15回目を実技試験とし、弾き歌い2曲を演奏発表する。			
授業計画	1 全体授業。オリエンテーション。15回の配分、進度表の書き方等の確認。 45分程で全体授業を終了し、A52教室へ全員で移動し、後半は個人練習を中心とし、適宜、担当講師による個人レクチャーを行う。 2 全体授業。現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)子どもの歌や合唱、リズム遊び等の演習。以下同様。 3 全体授業。以下同様。 4 全体授業。以下同様。 5 全体授業。以下同様。 6 全体授業。以下同様。 7 全体授業。以下同様。 8 ピアノ個人レッスン。初回ながらオンライン授業のため、対応できる電子ピアノ等の準備を必ず事前に完了しておきましょう。 9 個人レッスン 10 個人レッスン。 11 個人レッスン 12 個人レッスン。 13 個人レッスン。 14 個人レッスン。実技試験リハーサル等。 15 実技試験発表(個人レッスンの小グループで行います。)			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱい』教育芸術社 ※対面時は”有線イヤフォンorヘッドフォン”をお持ちください			
参考文献	日本児童教育専門学校編『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編 『子どもの指導法「音楽表現」』豊岡短期大学			
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。日本ダルクローズ音楽教育学会、全日本リトミック音楽教育研究会会員。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・身体表現遊びⅡ 選択必修 講義		講 師	菊池 一英
授業概要	子どもの遊びは生活そのものであることを学びます。また、様々な遊びを通して、保育実践力を身に付けます。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	1. 様々な身体表現遊びを経験し、子ども達の前で柔軟に対応できるようになる。 2. 実技とDVD視聴により、様々な遊びの指導方法を身に付けることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実技種目への貢献度(30点)身体表現遊びの表限度(20点)	
到達目標2	3. 企画会議に参加し、独自の運動会を計画・立案する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	企画会議への参加度(30点)運動会の企画立案のプレゼン力(20点)	
授業方法	実技科目に参加する。運動会企画会議を立ち上げ、企画、立案をプレゼンテーションをする。			
授業計画	1 ふれあい遊びいろいろ(ラブラブ握手他) 2 身体表現遊びいろいろ(洋風おべんと箱他) 3 野外での集団遊び(探検ビンゴ！) 4 身体表現としての手遊びいろいろ 5 野外遊びのいろいろくお陽さまこどもクラブ実践DVD視聴> 6 集団遊びいろいろ(ワン、ニャン、プー仲間よ集まれ他) 7 独自の身体表現プレゼンテーション 8 水遊びいろいろ 9 身体表現まねっこ歩き(BGMに合わせて表現) 10 運動会に向けての企画会議(1) 11 野外でのロープ遊びいろいろ<DVD視聴> 12 運動会に向けての企画会議(2) 13 運動会に向けての企画会議(3) 14 運動会に向けての企画会議(4) 15 運動会に向けての企画会議(5)(プレゼンテーション)			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅡ 選択必修 講義		講 師	森高 光広
授業概要	子どもの発達と成長を乳幼児から、未就学児、小学生までを中心に造形の視点から理解するとともに、簡単な制作を通して、子どもの手指の発達や感性の成長なども踏まえて、領域「表現」について考え、実践する力の基礎を身につける。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	子どもの発達の段階による表現の特徴や違いを理解し、説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	短大のレポート対策も兼ねて各回の設題に沿って資料や簡単な制作を通して具体的に理解できる。試験設問の事前学習や課題を行い、レポート対策練習や理解の定着度に基づき評価する。授業、制作の取り組み度(20点)、制作、課題内容の理解(30点)	
到達目標2	「造形表現」のねらいと意義を理解し、適切な素材や援助について考えることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	簡単な制作を踏まえて、テキスト内容に沿った課題の理解等についてレポート等で毎回確認する。討論への貢献度(10点)、発表・レポート(40点)	
授業方法	テキストに沿って、適切な資料や参考文献などを示し、簡単な制作も含めて具体的に理解できるように指導する。ICT資料も活用する。			
授業計画	1 オリエンテーション 日程、テキスト使用順の確認 子どもの育ちの理解と体験的学び 簡単実技 2 絵を描く～お絵かき大好き 発達の段階と特徴① 簡単実技 3 絵を描く～子どもの視点 発達の段階と特徴② 4 絵を描く～子どもの視点 発達の段階と特徴③ 5 図式期・象徴期の違いについて 確認課題;レポート対策① 重要点のおさらい① 6 造形あそびについて 簡単実技 7 版表現について 課題;レポート対策② 重要点のおさらい② 8 材料研究～立体表現① 課題;レポート対策③ 重要点のおさらい 9 各描法の特徴について 簡単実技 10 材料研究～立体表現② 試験対策 重要点のおさらい① 簡単実技 11 環境構成について 試験対策 重要点のおさらい② 簡単実技 12 試験対策 重要点のおさらい③ 簡単実技 13 歴史から学ぶ 簡単実技 14 教育の歴史から学ぶ 15 まとめ～保育士・幼稚園教諭としての役割			
必須テキスト	「造形表現論」豊岡短期大学			
参考文献	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
担当教員の専門分野等	図画工作科教育・題材開発(造形、絵画、小学校図画工作、中学校美術、造形ワークショップ、協働造形活動) 国立千葉大学教育学部附属小学校、公立中学校、教員、保育士養成大学で教えてきた経験や各園で実践中の子ども向けワークショップなどの経験を踏まえて、子どもの視点を大切にしながら主体的で楽しい造形活動について、具体的な例や簡単な制作を通して学んでもらえるように努めます。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・言葉遊びⅡ 選択必修 講義		講 師	橋本 千鶴
授業概要	子供の健全な心身の発達に深いかかわりをもつ豊かな児童文化財の中から、絵本・紙芝居・素話・人形劇・言葉遊び・わらべ歌・あそび歌などの言語表現活動に焦点を当てて、楽しみながら、保育活動への具体的展開方法や環境構成のあり方などを実践的に学ぶ。			
授業目標	1. 子供の心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子供の生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	言語表現を豊かに育む児童文化財について積極的に学び、将来の保育者として必要な知識や技能を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(10点)・リアクションペーパー(20点)・第11回授業で行うレポート(20点) →合計50点	
到達目標2	子供の発達段階に適した絵本・紙芝居・素話・人形劇・言葉遊び・わらべ歌・あそび歌などを選定し、保育現場での展開を考えることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	実技への取り組み度(10点)・手作り絵本の提出(10点)・授業内の実技の評価①絵本の読み聞かせや紙芝居の演じ方(10点)②素話の発表(10点)③言葉遊びの実技(10点) →合計50点	
授業方法	グループワーク・ディスカッション等の体験や実技、模擬保育を中心に実践的に学ぶ。			
授業計画	1 オリエンテーション・言語表現を豊かに育む児童文化財①素話の紹介 2 言語表現を豊かに育む児童文化財②絵本の読み聞かせの練習 3 乳幼児の言葉の発達と言語表現 4 言語表現を豊かに育む児童文化財③人形劇の演じ方 5 児童文化財による子供の言語表現活動 言語表現を豊かに育む児童文化財④素話(模擬保育と振り返り) 6 言語表現を豊かに育む児童文化財の指導⑤絵本 7 言語表現を豊かに育む児童文化財の作成とその指導(1)絵本の読み聞かせ(模擬保育と振り返り) 8 子供の言語表現指導法と指導案の作成 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「言葉」「表現」の内容 9 言語表現を豊かに育む児童文化財の作成とその指導(2)言葉遊び・わらべ歌・あそび歌 10 言語表現を豊かに育む児童文化財の作成とその指導(3)言葉遊び・わらべ歌・あそび歌(模擬保育と振り返り) 11 年間指導計画への位置づけと指導案の作成・保幼小連携・レポート 12 言語表現を豊かに育む児童文化財の作成とその指導(4)絵本制作 13 言語表現を豊かに育む児童文化財⑥紙芝居の演じ方(1) 14 言語表現を豊かに育む児童文化財⑥紙芝居の演じ方(2)(模擬保育と振り返り) 15 オノマトペを使った言語表現・まとめ			
必須テキスト	特になし。			
参考文献	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)、他授業で適宜紹介			
担当教員の 専門分野等	小学校教員として長く勤務し、国語・ことば分野を重点的に研究。日本カウンセリング学会認定カウンセラー。大学等で、幼児と言葉・保育内容指導法(言葉)・言語文化表現・教育相談(カウンセリング)等の授業を担当。「教師・保育者のための教育相談」(共著・萌文書林)を出版。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	30 %

2025年度 講義要綱

科 目	ゼミナールⅡ 選択 講義	講 師		
授業概要	「どこ行こう?」「なにをしよう?」 友達や先生と一緒に“わくわく”しながら自分の興味を深める グループ発表を通して協調性を養う			
授業目標	将来保育者として必要な協調性、企画力、製作する力を身に付けることができる。			
到達目標1	各自の興味関心に基づいて教材研究を行い、製作することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	保育教材の提出50点 ※前期、後期ゼミ合算評価	
到達目標2	子どもの実態に合った保育教材の発表をできる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	発表30点+提出物20点 ※前期、後期ゼミ合算評価	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は前期7コマ、後期8コマの通年科目である。 ・後期子どもたちの前での保育教材発表に向けて、子どもの実態に合った保育教材を作成、演じ方を学ぶ。 ・学生の関心、希望にそって校外学習の場所や内容を決定する。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 【前期】オリエンテーション・発表グループ決め 2 【前期】保育教材検討 3 【前期】保育教材検討・製作 4 【前期】保育教材製作 5 【前期】保育教材製作 6 【前期】保育教材製作 7 【前期】校外事前学習 8 【後期】保育教材製作 9 【後期】校外学習 10 【後期】校外学習 11 【後期】保育教材提出 12 【後期】プレ発表 13 【後期】保育園発表 14 【後期】保育園発表 15 【後期】振り返り 			
必須テキスト	特に指定しない			
参考文献	特に指定しない			
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業に該当する			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2025年度 講義要綱

科 目	教育史 選択 講義		講 師	佐藤 雄哉
授業概要	本講義では、教育の歴史に関する問いをめぐって、歴史と現在を往還しながら学んでいきます。また授業内では学生相互の対話を通じて、教育の歴史についての理解を深めていきます。			
授業目標	教育の歴史に関する問いをめぐって、現在との比較を交えつつ理解を深める。教育の歴史を学ぶことの意義を自分なりに捉える。			
到達目標1	教育の歴史に関する問いをめぐって、現在との比較を交えつつ理解を深めることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	毎回のリアクションペーパー(15点)、レポート(35点)	
到達目標2	教育の歴史を学ぶことの意義を自分なりに捉えることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	毎回のリアクションペーパー(15点)、レポート(35点)	
授業方法	基礎的な事柄については講義形式で授業を行い、適宜グループワークやディスカッションに取り組みます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 なぜ教育の歴史を学ぶのか:オリエンテーション 2 学校はなぜ成立したのか:近代学校教育の誕生 3 戦前の学校はどのように整備されたのか:天皇制教育体制と義務教育制度の確立 4 帝国日本の教育はどのように展開したのか:資本主義の発達とデモクラシー 5 戦時下の教育はどのように展開したのか:戦時体制下の学校 6 戦前の教育が戦後どのように変化したのか:戦後教育の出発 7 教育はどのような要求に応えようとしてきたか:55年体制の成立と展開 8 競争させる教育は子どもに何をもたらしたのか:高度経済成長下の子ども 9 学校教育に対してどのような異議申し立てがあったのか:1970年前後の抵抗運動 10 なぜ学校は子どもの管理を強めたのか:管理教育の進行 11 「個性尊重の原則」の教育改革は何をもたらしたのか:教育における新自由主義改革の導入 12 教員の職場環境はどのように変化したのか:教育における新自由主義改革の本格化 13 教育改革は子どもに何をもたらしたのか:新自由主義改革の子どもへの影響 14 学校は障害のある子どもといかに向き合ってきたのか:特別支援教育からインクルーシブ教育へ 15 総括・まとめ 			
必須テキスト	小国喜弘『戦後教育史』中央公論社、2023年。			
参考文献	片桐芳雄・木村元編『教育からみる日本の社会と歴史』第2版、八千代出版、2017年。			
担当教員の 専門分野等	教育史、人権教育論。東京大学大学院教育学研究科博士課程。修士(教育学)。中学校における学習支援員(板橋区)。産業・教育資料室きねがわ運営委員。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	25 %

2025年度 講義要綱

科 目	教育実習指導 I 選択 講義	講 師	石原 成	
授業概要	幼稚園教諭免許状取得希望者は教育実習を行うことが必須である。本授業では学校で学習した知識や技能を生かしながら保育技術の取得、教師としてふさわしい態度を身につける。			
授業目標	幼稚園教育における教育内容、教師の職務、幼児の活動の内容とそれらの意味について理解する。 観察における留意点を理解し、事実に応じて記述する力を身につける			
到達目標1	教育実習に臨む態度や目的意識を持つことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度 (30点) 授業内プリント記入・提出物 (20点)	
到達目標2	観察における留意点を理解し、事実に応じて実習日誌を記述することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	筆記試験 50点 日誌の記入	
授業方法	幼稚園の基礎的な理解や実習で必要とされる観察方法や記録の仕方、幼児理解をテキストや視聴覚教材を用いて行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の概要 2 実習の心得 書類作成 3 幼稚園教育の特色 4 幼稚園教育のねらいと内容の理解 5 幼稚園の一日の流れを知る・指導案の作成と実施への見通し 6 実習日誌の記入の仕方 7 部分実習指導案記入のしかた 幼児の実態とねらい 8 オリエンテーションについて 実習内容を具体的にイメージする 9 年齢毎の特徴 10 筆記試験 日誌の記入 11 日誌の記入の仕方確認 12 教師のねらいと援助のあり方 13 実習前確認 14 教育実習 I 振り返り 15 教育実習実習 II に向けて課題を明確にする 			
必須テキスト	『幼稚園教育実習事前・事後指導』豊岡短期大学			
参考文献				
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科 目	合唱と合奏Ⅱ 選択 講義	講 師	島内 亜津子、鈴木 真智子、高山 美帆、山崎 洋子、渡辺 容子	
授業概要	前期までに学んだ子どもの歌を中心としたレパートリーについてどのように現場で子どもたちと楽しんでいくか、自ら工夫しながら、コードによる簡易伴奏も含めより良い支援の方法を身に付けていきます。前半7回をクラス全体授業とし、歌遊びや合唱の授業45分、その後A52教室に全員で移動し、ピアノのレパートリーのための自主練習に充てます。担当講師1名のため、活発に質問を行いながら進めてください。6月からの後半8回は、小グループに分かれ、ピアノ個人レッスン(オンライン授業も含む)を行います。前半7回で自ら練習してきた内容をさらに深め、レパートリーを増やして保育実習に向けて実践力を養っていきましょう。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容とねらいを理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を自身のスキルに合わせて自ら工夫して実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	全体授業では、環境、生活、人間関係等、様々なねらいに応じた歌遊びの現場での楽しみ方を身に付け、またハーモニー(合唱)を演習し、互いに聞き合い、協働の喜びを共有することが出来る。また授業後半の全員参加のA52教室・その他レッスン室での個人練習に意欲的に取り組むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	クラス全体での歌遊びや合唱への積極的参加(30点)・自主練習への能動的な取り組み(20点)	
到達目標2	個人レッスン(ピアノ等)では保育実習に向けて生活の歌や現場ですぐ楽しめる曲を2～3曲弾くことが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業日以外での積極的な自主練習と授業への積極的な取り組み(30点)・実技試験(20点)	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> 15回の授業の内、前半7回を歌遊び・合唱の全体授業、後半8回を小グループでのピアノを中心とした個人レッスン(オンライン授業も含む)に設定し受講していく。 基本的に15回目を実技試験とし、弾き歌い2曲を演奏発表する。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 全体授業。オリエンテーション。15回の配分、進度表の書き方等の確認。45分程で全体授業を終了し、A52教室へ全員で移動し、後半は個人練習を中心とし、適宜、担当講師による個人レクチャーを行う。 全体授業。現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)子どもの歌や合唱、リズム遊び等の演習。以下同様。 全体授業。以下同様。 全体授業。以下同様。 全体授業。以下同様。 全体授業。以下同様。 全体授業。以下同様。 ピアノ個人レッスン。初回ながらオンライン授業のため、対応できる電子ピアノ等の準備を必ず事前に完了しておきましょう。 個人レッスン 個人レッスン。 個人レッスン 個人レッスン。 個人レッスン。 個人レッスン。 個人レッスン。実技試験リハーサル等。 実技試験発表(個人レッスンの小グループで行います。) 			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社 ※対面時は”有線イヤフォンorヘッドフォン”をお持ちください			
参考文献	日本児童教育専門学校編『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編 『子どもの指導法「音楽表現」』豊岡短期大学			
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。日本ダルクローズ音楽教育学会、全日本リトミック音楽教育研究会会員。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %